



Title	低温センター長就任の挨拶
Author(s)	萩原, 政幸
Citation	大阪大学低温センターだより. 2021, 171, p. 1-1
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/81808
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

低温センター長就任の挨拶

低温センター長 萩原 政幸

令和3年4月1日より、前センター長の中谷亮一先生の後任としてセンター長に就任しました。二度目のセンター長就任となります。今回お引き受けした理由は、前回低温センターの事をあまりよくわからずセンターチ長を引き受けてしまい、就任一年目にはセンターの皆さんにご迷惑をおかけした償いと現在の低温センターにおける懸案事項は、これまでの経緯を知らないとできないと判断したからです。

液体ヘリウムをめぐる社会情勢は大きく変わってきており、ヘリウムガスの価格は高騰（今年度までの8年間でおよそ1.9倍）し安定供給が難しくなりつつあります。一昨年度にはこのヘリウム危機に際して、東京大学物性研究所でISSPワークショップ「ヘリウム危機の現状と今後の課題」が行われ、世界情勢の紹介と今後の供給予測が報告されました。私もこれに参加して阪大における外部へのヘリウム液化事業に関して報告しました。この後、日本物理学会を中心に緊急声明「ヘリウムリサイクル社会を目指して」が出されました。また、シャープ亀山工場における超伝導磁気エネルギー装置(SMES)の運転停止に伴う液体ヘリウムの入手に関して本号に低温センターの竹内先生が書かれていますが、この話も上述のワークショップを通して知り合いなった東京大学物性研究所の勝本先生からの紹介が発端でした。現在、ISSPワークショップの世話人を中心にヘリウムリサイクルに関してのフォーラムが作られて情報交換もしております。

豊中分室にあるヘリウム液化装置においては、様々な予算措置により装置の多くが更新されました。回収用圧縮機と油水分離機の更新がまだ行われていません。この圧縮機は平成8年度に設置された古い物で、通常15年程度で更新すべき装置ですので早い時期での更新が求められています。豊中地区の理学研究科や基礎工学研究科の多くの研究室で寒剤として液体ヘリウムが教育研究に利用されていますので、ヘリウムガスの液化ができなくなれば即研究に影響を与えるものになります。電気、水、ガスといったライフラインの社会インフラが我々の日常生活を支えているのと同様に、低温センターによる寒剤供給のシステムは研究インフラとして我々の研究生活を支えています。このように重要なものであることから、皆さんのご協力の下で何とかこれらの装置の更新を早い時期に実現したいと考えております。

最後になりましたが、多くの皆様への寒剤の低価格での安定供給、資源保護、そしてヘリウム液化による雑収入確保に努めてまいりますので、低温センターへの皆様のご支援、ご協力の程をよろしくお願い致します。